さわらび

さわらび保育園年報 第 7 号

2017年(平成29年)8月 発行

発行／編集

社会福祉法人 輔仁会 さわらび保育園
〒813−0031福岡市東区八田4-6-5
［TEL］ 092-671-1881 ［FAX］ 092-671-1763
［E-mail］ sawarabi@suo.bbiq.jp
［ＨＰ］ http://www.hojinkai.ed.jp/sawarabi/

「園長交代」と「法人組織改編」　理事長／統括園長　大浦 純平

「お疲れ様でした、そして、有り難うございました」

この4月に三園の園長が交代しました。つぼみ保育園の「大久保園長」とさわらび保育園の「楢原園長」は退職により、また、新宮つぼみ保育園の「大浦園長」は法人内部の異動に伴う辞任により、それぞれ新園長が就任しました。各園のこの紙面に前園長と新園長のご挨拶が掲載されていますのでお読み下さい。

大久保先生と楢原先生がそれぞれの立場で児童福祉の世界で永年に渡りご苦労を重ねられましたことに敬意を表するとともに、法人として園の発展に大いに寄与していただいたことに対し心から感謝をいたしております。

また、3名の新園長には先輩園長が築き上げた保育を更に充実させ、子どもたちにとって最善の喜びに満ちた保育園となるよう大いに期待をしています。

「社会福祉法人を取り巻く状況の変化、そして、評議員会の設置義務と役割」

保育・介護分野は、社会福祉法人だけではなく株式会社やNPO法人など、多様な経営主体が競合する市場となっています。その中で補助金や非課税措置などの財政上の優遇措置を受けている社会福祉法人は、公益性・非営利性を担保する観点から、透明性の確保に努め、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人のあり方を示す必要があります。そのため今回、法的整備を実施し、社会福祉法人改革がなされることとなりました。その中で、「理事・理事長に対する牽制機能として、議決機関である評議員会を必ず置くこと」が示されており、当法人としても昨年1年間かけて新たに**評議員会**を設け、法人運営にかかる重要事項の決定をする議決機関として位置づけることにしました。また、評議員の決定については**評議員選任・解任委員会**を設置し、そこでの審議を経て行うこととなりました。

株式会社に照らしてみると、**理事会は取締役会**、**評議員会は株主総会**に当たるとお考え下さい。

以上の経緯により、法人の役員組織が以下のようになりました。

どうぞよろしくお願い致します。

理　事	大浦 純平・森部 エミ子・浅見 義紀・三角 隆義・山田 宏次郎・大浦 哲平		
監　事	小島 加須子・蒲池 知佳子（新）	相談役	大久保 和行

評議員（新）	井槌 浩雄・吉浦 勝喜・野村 誠二・奥田 貫介 石川 近衛・有松　徹　・中尾 知樹
評議員選任・解任委員（新）	増本 律秀・末松　隼・大浦 有平

出会いに感謝

前園長　楢原　洋子

夏真っ盛り。入園・進級された子どもたち、保護者の皆様も新しい環境にも慣れ忙しくも安心して過ごされていることと存じます。

私も退職して早4か月が過ぎました。在職中は園保育にご支援ご協力本当にありがとうございました。現在久留米に居ります孫の保育園送迎の為、久留米と福岡を行き来しております。保育園迎えまでの時間は掃除、洗濯、買い物、時間を見ながら夕食の用意、学童帰宅の長女の宿題を見て（中々忙しい）、保育園まで迎えに行っています。改めて子育ての大変さと忙しさを感じています。夕方帰宅する娘からは「帰ってすぐに夕飯なんて初めて」と感動されたものですが、今ではそれが普通の様です。私も子育てしながらの仕事でしたのでこれからはそのときの恩返しかなと思う日々です。

保育、保育行政に携わりまして44年間、社会福祉法人輔仁会さわらび保育園在職8年間（内園長職5年）子どもたち、沢山の方々の出会いが長い間仕事を続けることができた源だと感謝いたしております。

在職期間中は障がい児保育について、障がいのある子もない子も日常的な交流の中で同じ保育園・地域の中で「共に育ち合う」という強い思いと熱意を持って関わってまいりました。市の障がい児保育は昭和54年試行保育所で開始され、昭和58年4月から指定園、平成14年4月からは児童福祉審議会の、“全園受け入れ”の答申を受けて現在に至っております。子どもたち一人一人は様々な困難を持っています。それはまず身近にいる大人が受け入れることからスタートすると常々思っています。園で一緒に生活している子どもたちはいろいろな個性の友だちがいることを理解し仲間として、日々の生活と遊びの中でさりげなく手伝いをしたり、じっと見守ったり、待ったりと優しさや思いやりが育っているようで、共に笑い泣き共に成長する姿があります。これは身近にいる大人・保育士がその子の特性を知り、その子にあわせたかかわりの姿を見ているからだと思います。保育は一人一人の人権を大切にしながら展開していくものです。

今後とも、地域の保育園としての活躍発展を祈念致しますと共に、子どもたち一人一人そして保護者の皆さまのご健康とお幸せをお祈り申し上げます。

私も健康に気をつけて、孫に好かれるばーばちゃんでいられる様に、また少しでも家族や地域にお手伝いができることはしていきたいと思っております。

皆様も本当にお元気で。

ありがとうございました。

園長として「はじめの一歩」

園長　三笠　良子

平成29年度が始まり、四ヶ月が過ぎました。今年度より園長を務めさせて頂きます。

私事ではありますが、社会福祉法人輔仁会に就職して36年余り、つぼみ保育園と第2つぼみ保育園で30年勤務し、さわらび保育園での経験は6年目となります。これまでの保育士の経験を活かしつつ昨年度までは主任の職務についてきました。

つぼみ保育園からさわらび保育園へ異動してきた当初は、園の内部には分からないことも多くあり、楢原園長先生や職員の皆に支えられながらの毎日でした。一年間の流れや、地域の方々との繋がりの大切さを理解して、私なりに目指す方向を定めて園の事を下支えすることがやっと出来るようになってきたところです。昨年度は、コーチングの研修を受ける機会を与えて頂き、園児・保護者・職員一人一人の声に耳を傾け思いを受け止められるように、そして一人一人の素晴らしさに気づけるように、改めて学ばせていただきました。

しかし、園長という立場は今まで以上にいろいろな角度から保育園内外の事を考えていかなければならず、その重圧を日々ひしひしと感じています。「これはどうする？」「あれはどうなってる？」と頭を悩ませ、事務的なことでは「えっ、この書類に書いてあることは何？」など分からない事も沢山あり、まさに、人生最大の試練です。とはいっても弱音を吐いているばかりではいけません。この立場を任せて頂いた以上、誠心誠意努めていく覚悟です。保育園は子ども達が生活する場所です。なにより子ども達が笑顔で過ごせるように安全安心である事が第一です。そして、保護者の皆さんの子育てを支援することも大切な仕事です。一人一人の子どもの育ちに気を配り、子ども達の成長を保護者の方と共に喜べる様に、園全体で取り組んでいきたいと思っています。勿論、職員も大切にしていきます。

難しい場面も沢山でてくると思いますがさわらび保育園の48年の歴史に支えられながら、職員、保護者の方々、地域の方々などのご協力をいただきながら日々を積み重ね又新しい歴史を作っていきたいと思います。宜しくお願いします。

さわらび保育園の応援団として

平成２９年度　父母の会　会長　生田　淳一

いつも父母の会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。みなさんのおかげで、今年もたくさんの子ども達の笑顔に出会うことができそうです。

二度あることは三度ある。本年度、三度目の会長を務めることになりました。振り返ってみますと我が家は、さわらび保育園にお世話になり始めて10年目を迎えます。10年前、親として慣れないことばかり、不安だらけの子育てでした。でも、保育園にお迎えに行ったとき、子ども達が笑顔で遊んでいるのを見て、ホッとしたのを覚えています。それは、いまも一緒ですね。そんな、安心して子どもを預けることができる保育園にお世話になって10年。私自身40歳を過ぎてしまい、まわりを見渡すと、私よりも若いお父さん、お母さん。おまけに、園舎も園庭も新しくなった「さわらび保育園」。実は、圧倒されることもしばしばですが、ここは「おじさん」らしく、頑張ってみようと思います。

早速、取り組んだ夏祭りの準備。みなさん、本当に一生懸命に子ども達のために取り組んでいただいています。「あぁ、これこれ、いまも昔も変わらないね」と、ひとり感慨にふけってしまいました。ときには、なんだか楽しそうに。課題も多いし、正直大変です。しかし、その中でも、実行委員やサポーターとして、それぞれがいきいきと活動に参加されているのがとても素晴らしいです。

そういえば、前回会長を引き受けたときのこと。役員の方が、「子ども達の笑顔が見られれば、それでいいとよ」とお話されていました。そんな話をいろんなところで聞くことができます。この思いはつながっているのですね。ですから、これまでも、これからも父母の会は、園の取り組みをサポートする応援団として、その役割をしっかりと果たしていくと思います。みなさん、これからも、子ども達のためにみんなで協力していきましょう。そして、私たちみんなで、子どもの笑顔を見守っていきましょう。今後とも、よろしくお願いいたします。

平成二十九年度　行　事

4月
- 3日　はじめましての会
- 5日　園児健康診断
- 8日　クラス懇談会
- 12日　園児健康診断
- 15日　親子歓迎遠足

5月
- 家庭訪問

5月
- 10日　園児健康診断
- 12日　園児健康診断
- 25日　歯科検診

6月
- 一日保育士月間

6月
- 1日　芋苗植え
- 10日　親子保育
- 12日　体力測定（3日間）
- 26日　観劇会

7月
- 7日　七夕会
- 8日・9日　青組キャンプ
- 22日　さわらび夏祭り

8月
- 5日　香椎宮夏祭り

10月
- 8日　運動会
- 17日　交通安全教室
- 26日　三日月山登山
- 30日　体力測定（3日間）
- ＊日　園児健康診断

11月
- 一日保育士月間

11月
- 2日　芋掘り
- 16日・17日・18日　たからもの展
- ＊日　園児健康診断

12月
- 1日　影絵鑑賞（青組）
- 10日　合同音楽祭（青組）
- 16日　もちつき

1月
- 5日　七草の会
- 10日　鏡開き・どんど焼き
- 11日　ミニファイヤースクール
- 13日　クラス懇談会
- 18日　スケート指導（青組）
- 27日　年少発表会・バザー
- 31日　クラス記念撮影

2月
- 2日　豆まき
- 10日　さわらび発表会

3月
- 2日　ひなまつり会
- 9日　お別れ会
- 初旬　入園説明会
- 24日　卒園式
- 26日　入園式
- ＊日　お別れ遠足

保護者寄稿

さわらび保育園を卒園した保護者の方に幼き日の思い出と共に、子育てについての思いを綴って頂きました。

「さわらび保育園と共に」

第18回卒園　植木　麻奈美

一人目は「泣きながら」育て、二人目は「泣き笑い」で育て、三人目は「笑いながら」育てるという言葉を聞きます。

思えば一人目の時、全てが不安でぐっすり眠っている姿にも「息してる?」と心配になるほどでした。保育園に通い始めてから、色々なことを相談できる先生方に出会い、数多くのことを教わりながら子育てをしました。二人目の時は、少し知識がついて気持ちに余裕ができたのですが、時間に追われバタバタした毎日の中で我が子の小さな変化・仕草・成長を見つけ喜んでくれている先生方の姿に、一緒に子育てをしてもらっている!と心強い気持ちになりました。笑いながら育てる三人目は居ませんが、さわらび保育園で色々な経験をして、子どもだけでなく私たち親も一緒に成長させていただきました。また、増改築工事を終え、今まで以上に快適で安心・安全な保育園になった事を嬉しく思います。

第1回改築工事中に卒園した長女、在園中の次女、さわらび保育園の節目の年を経験した我が家が思う事は、一人目も、二人目も、三人目も「さわらびっこ」で育てる!!です。

新しい園庭を紹介します

平成27年6月中旬より開始した工事が29年3月に全工程が終了しました。

工事期間中は中々外に出ることができず、近くの公園などに行き身体を動かしていましたが、新しい園庭ができると、水を得た魚のように子ども達も園庭を駆けまわっています。新しい遊具の使い方が分からず戸惑う姿もありましたが、すぐに慣れ、元気いっぱい楽しんでいます。園庭でのルールも少しずつ身に付いてきているので、繰り返し伝えながら楽しく遊んでいきたいと思います。

また園庭には8種類の木々が植樹されています。まだまだ小さな木々ですが、グングンと大きく枝を伸ばしています。築山の上には桜の木が植えてあり、3月には花も咲き、子ども達が嬉しそうに見上げていました。他にも4種類のどんぐりの木が植えられています。まだ実はついていないですが、子どもたちとドングリの実がなるのを楽しみに待ちたいと思います。

緑豊かな園庭を目指して植えた木々が、子どもたちと共に成長し、木の実をつけたり虫たちを呼んで、子どもたちの心も豊かにしてくれることを願っています。　（荒津）

アラカシ

ゲッケイジュ

クヌギ

スダジイ

《飾り棚》
～一年間の作品をご紹介～

エントランス横にある飾り棚。昨年度から毎月始めに飾りを替えています。まず何をテーマにするか、どのように飾っていくのか職員間で話し合いを持ち、絵本をテーマにしたものを制作することになりました。

テーマが決まり、各クラス毎に絵本を決め、構成・内容・使用する素材など意見を出し合い決めていきました。制作には給食室の職員も含め全員が関わり、アイディアに煮詰まると、経験のある職員からアドバイスをもらい、更にイメージを膨らませながら制作をし、飾り棚の作品作りを進めています。

出来上がった物を子ども達や保護者の方が楽しそうに見たり、会話をしたりして楽しめる場所になったらと思い、飾っている飾り棚ですが、保育士にとってもいいコミュニケーションの時間になっています。飾り棚の制作を通して、子ども・保護者の方々にも楽しんで頂きながら、保育士同士の連携も高めていけたらと思います。　（楠本）

4月
「はらぺこあおむし」

5月
「そらまめくんのベッド」

6月
「かたつむりののんちゃん」

7月
「スイミー」

8月
「だるまさんの」

9月
「とんぼのうんどうかい」

10月
「からすのパンやさん」

11月
「ぐりとぐら」

12月
「かさじぞう」

1月
「だるまちゃんとゆきのこちゃん」

2月
「もりのおふろ」

3月
「きいろいのはちょうちょ」

平成28年度 さわらび保育園決算状況　（単位 円）

【 資金収支計算書 】

区分	科目	金額
事業活動資金収支	保育事業収入	243,763,612
	経常経費寄附金収入	500,843
	受取利息配当金収入	64,274
	その他の収入	5,022,753
	事業活動収入計(1)	249,351,482
	人件費支出	164,048,661
	事業費支出	30,209,004
	事務費支出	13,509,678
	支払利息支出	134,829
	その他の支出	4,412,857
	事業活動支出計(2)	212,315,029
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	37,036,453
施設整備等資金収支	施設整備等収入計(4)	260,603,000
	施設整備等支出計(5)	219,559,949
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	41,043,051
その他の活動資金収支	その他の活動収入計(7)	0
	その他の活動支出計(8)	77,573,853
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△77,573,853
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)		505,651
前期末支払資金残高(11)		27,034,038
当期末支払資金残高(10)+(11)		27,539,689

【 貸 借 対 照 表 】

区分	科目	金額
資 産	流動資産	37,410,825
	固定資産	519,305,568
	基本財産	381,850,688
	その他の固定資産	137,454,880
資産の合計		556,716,393
負 債	流動負債	13,544,709
	固定負債	72,025,000
	小　計	85,569,709
純資産	基本金	72,785,900
	国庫補助金等特別積立金	262,347,527
	その他の積立金	80,000,000
	次期繰越活動収支差額	56,013,257
	小　計	471,146,684
負債及び純資産の合計		556,716,393

※詳しくは輔仁会ホームページの情報公開よりご覧頂けます

平成29年度 職員構成
（8月1日現在　47名）

園　長	三笠 良子
主　任	荒津 佐知子
副主任	中村 一星
事務主任	林 美由起
もも組	小林 千春 池松 順子　渡辺 久美子 柴藤 彩　安部 美子
うめ1組	原口 直美　朴木 千佳子 鎌田 眞理
うめ2組	串尾 由依　中野 日花里 松田 雄紀
さくら1組	濱 千尋　久保 香織 今村 優己子
さくら2組	山本 紗代　森 浩貴 袴田 れい子　佐野 美奈子
さくら3組	飛来 弘子　平田 一馬 前車 智子　中島 千賀子
年少フリー	福山 ひとみ　薄 一美 山下 鈴華
なのはな組	楠本 勝馬
たんぽぽ組	中村 一星　湯之前 駿司
すみれ組	平河 奈緒子
れんげ組	池田 加奈　佐藤 由佳
つくし組	畠山 美桜
年長フリー	國武 歩実　下川 加南子 古賀 美夏
栄養士	西岡 広美　渡邉 和
調理員	串崎 美津代　清水 妃鶴 齋藤 豊子　池田 善子 神田 英里香　西原 ひろ子
用務員	小嶋 満廣

平成29年度 父母の会役員

会　長	生田　淳一
副会長	大枝　亮智
々	牛房　憂香
書　記	高日　和枝
々	長嶋　裕子
会　計	今村　利恵
々	松田　茜
役　員	森　潮美
々	石田　加奈
々	浦田　麻衣
々	吉田　李香
々	尼崎　英里
々	大橋　智子
々	板木　真菜美
々	宮内　加名代
々	平　結
々	西村　里美
々	地福　ゆり
々	江口　阿衣
々	三根　せりか
々	前田　恵美
々	村元　千春
々	吉井　ゆかり
々	中西　美里
々	橋本　朋子
々	江渡　安里采
々	吉泉　比呂子
々	藤原　香織
々	田邊　貴和子
々	後藤　紀子
々	中嶋　美里
々	荒巻　隆子
々	光野　典
々	本田　佳代子
々	宮崎　泉
々	矢野　操
々	植木　麻奈美
監　査	中尾　恵美
々	河野　小百合

寄せられた意見・要望の状況

受付年月日	申出者	受付内容	解決結果
平成28年6月28日	近隣住民	太鼓の音がうるさい。体調が悪く静養中であり、他にも年寄りが多く日中でも寝ている人もいるので静かにしてほしい。	すぐに謝罪し太鼓の練習を中断する。その日以降の練習では、外部への音もれを極力なくすようにホールのカーテンを閉め、下の窓の部分にマットを立てるなどした。また、練習中に園周辺をまわり音の聞こえ具合を確認した。